

## 高圧受変電施設の点検を実施しました！

160t焼却施設、70t焼却施設ともに高圧電気(6,600V)を使用しています。そのため、年に1回施設をすべて停電させて高圧受変電施設の点検を実施しています。今年度も5月末に点検を実施しましたので、その模様などをお伝えします。



70t焼却施設の点検前打合せの様子です。  
高圧電気の点検は危険が伴います。  
作業開始前に綿密な打ち合わせをしています。

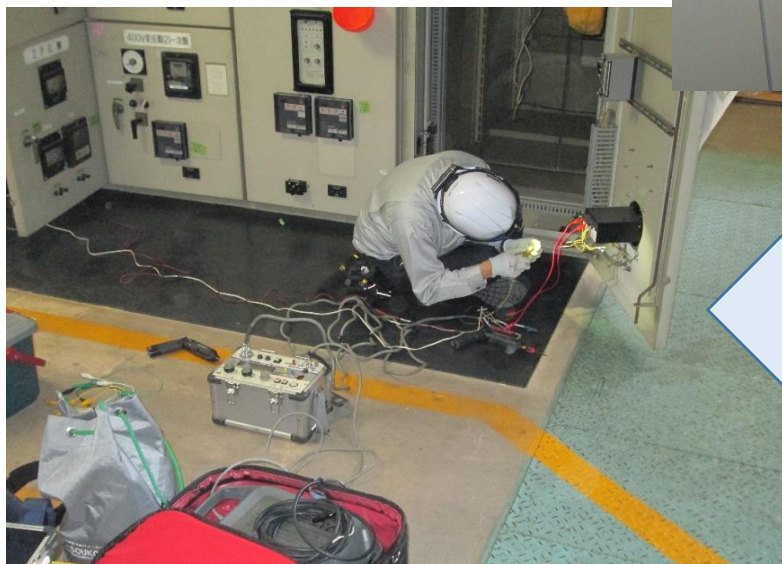
160t焼却施設の点検前確認の様子です。  
停電になる前に点検方法の確認などを行います。



160t焼却施設の点検中の様子です。  
電灯が消え、停電になっていることが分かります。  
空調機器も停止することから、点検中は暑さとの  
戦いにもなります。



70t焼却施設の点検中の様子です。  
点検作業にあたっては、各施設に常駐している電気  
のプロ「電気主任技術者」が点検を指示しています。  
この写真は手前の青い作業服の職員が70t焼却施設  
の電気主任技術者です。



160t焼却施設の点検中の様子です。  
停電中でなければ点検ができない機器を点検します。  
この点検は万が一漏電が発生した際に安全に電気を  
止めるための機械の動作確認をしています。

70t焼却施設の点検中の様子です。  
通電中6,600Vの高圧電気が通っている部品です。  
機器から取り外して点検や清掃をしています。



160t焼却施設の電気盤内の写真です。  
盤の中にはごみクレーンや灰クレーンを制御する  
ための様々な部品が詰め込まれています。  
160t焼却施設は昭和50年代に設計された施設  
のためコンピュータ制御ではなく、アナログ制御です。  
クレーンが動いているときは「バチン」「バチン」と  
アナログスイッチが動いている音が聞こえます。

160t焼却施設の電気盤内の写真です。  
様々な焼却炉設備に電気が送られています。  
普段は安全の為に力ギがかかっており、担当者以外は盤を開けることはできません。



160t焼却施設の非常用発電機です。  
停電が発生した際、焼却炉を安全に停止させるための非常に重要な機械です。  
毎月1回の定期点検を実施していますが、年に1回は他の電気設備と合わせて綿密な点検を実施し、万が一に備えています。

### 【ポイント！】

中央清掃センターでは年間に6万トン近くの燃やすごみが搬入されます。  
焼却炉が故障してしまうと、燃やすごみが処理できません。

家庭と同じように清掃センターにも必ず電気が必要です。  
電気は非常に便利ですが、使い方を誤ると大きな事故に繋がります。  
そのような事が起きないように、中央清掃センターでは定期点検を  
欠かさずに実施しています。